地政学リスク時代を考える

吉 崎 達 彦

はじめに

御紹介ありがとうございます。双日総合研究所

の吉崎でございます。どうぞよろしくおつき合い

いただければと思います。

私は、二〇一六年から二〇一八年まで日本経済

調査協議会の地政学リスク委員会の主査を務めて いましたが、二〇一六年六月の最初の会合が始ま

えると、大変なタイミングで、いわゆる地政学リ るなり、ブレグジットが決まりました。今から考

スクによってマーケットが振り回されるというこ

話をどう考えればいいのか、もちろん私自身にも とをこの数年で体験したと思います。このような

思っております。

一、当面の政治外交日程

密な内容になっています。 一〇月以降の政治外交日程を見ると、 かなり濃

一〇月四日、臨時国会が召集されます。そし

あるので、予断を許さない状況です。

香港デモの問題などが無事に片づいている必要が

にとっては結構良い話ですが、ただ、そのときは が再開されます。米中の貿易戦争については

するのではないかと思います。そうなれば、日本 で、ここまでにミニディールのようなものを実施 談が行われ、そこが一つのゴールになり得るの す。一一月のAPEC首脳会議の際に米中首脳会 で、これから米中は協議に向かうだろうと思いま 国が一○月一日に無事建国七○周年を通過したの 中

て、一〇月一〇日からワシントンで米中閣僚協議

hensive Economic Partnership = 東アジア地域 サミットなどが予定されていまして、もしかする 包括的経済連携) とRCEP(アールセップ、Regional Compre-す。さらに、今月末から来月頭にかけて東アジア そして、三一日はイギリスのEU離脱期限 の協議もここで進むかもしれま

包括保護協定)が一一月二三日に正式に失効しま それ以外にも、日韓のGSOMIA (軍事情報

す。昨日みたいに北朝鮮でミサイルが発射される

と、さすがに韓国もまずかったなと思っているよ

せん。

うです。ただ一つだけチャンスがあって、即位礼

正殿の儀に韓国から要人が来て、そこで何か妥協

ができるのではないかという話もあるようです。 少し先を見るだけでも本当にいろいろなことが

というのを私たちは今まで経験したことがない ありますが、これだけ国際政治がややこしい状態 · の

思いますが、祝日です。 の予定を入れている人が結構いるのではないかと

ですが、実はこの日がメインです。この日に会社

大イベントがあります。天皇陛下の即位は、五月

また、今月は、二二日に即位礼正殿の儀という

の連休で全部済んだ気になっている人もいるよう

ではないかと思います。

二、「地政学リスク」の誕生

もしろいことを発表していますが、最初の頃から す。最近はもうすっかり有名人で、毎年、年初に 欠かさず読んでいる者としては、彼が次第に暗く 今年の一〇大リスクを発表しています。 なってきているのが気になります。なぜ暗くなる かというと、自分が言ったことが次々に当たって ユーラシアグループのイアン・ブレマーさんで 地政学リスク」という言葉を広めたのは、 いつもお

> 思う方向に導くという天才的な方だったのではな ことでうまくみんなを煙に巻いて、マーケットを など、普通の言い方をするとスーッと聞き流しそ で、「根拠なき熱狂」とか「Conundrum(謎)」 ると、グリーンスパンさんは名コピーライター 聴会で使ったことで有名になりました。考えてみ う忘れられつつありますが、アラン・グリーンス うな言葉を、何かひっかかるような言い方をする リスク」という言葉は誰が作ったのか。最近はも パンさんです。彼が二○○二年九月に米議会の公

こ数十年で最も危険な状態になっている」と言っ しまうからで、今年は「世界の地政学的情勢はこ

ないのか」と聞かれて、「それは地政学リスクの めるのではないかと皆が怯えていたころです。そ の時期に「アメリカのマーケットは、なぜ元気が

のちょうど一年後で、アメリカはイラク戦争を始

二〇〇二年九月というのは、九・一一テロ

事件

いかと思います。

せいだ」とグリーンスパンさんは答えます。そう

ればいいかということですが、そもそも「地政学

では、このような世の中を私たちは一体どう見

3

得したわけです。その半年後、イラク戦争が本当

言われると何となくもっともらしくて、みんな納

だったら私たちはよく知っている、そんなに怖い だったわけで、始まってしまえば、それは地政学 は、戦争になるかならないかということが心配 リスクではなく、ただの戦争なわけです。 は下がり、ドル高になった。つまりマーケット に起きました。しかし、マーケットは極めてポジ ティブに反応しました。株は上がり、石油の値段 戦争

三、「地政学リスク」という言葉 に対する日米メディアの反応

は、二〇〇二年に初めて登場します。その後 で調べたところ、「地政学リスク」という言葉 どのくらい取り上げていたのか。日経新聞の検索 「地政学リスク」という言葉をメディアは 一体

で、リーマンショックがあった二〇〇八年の地政 実験の時は回数が多くなっています。その一方

○○三年のイラク戦争や二○○六年の北朝鮮の核

学的なリスクに、ロシアのグルジア ミア併合問題の時はものすごく反応しました。 いません。一方、二〇一四年のウクライナのクリ ア)侵攻がありましたが、この時は全く反応して (現ジョ ージ

ます。

うかわからないという不透明性を恐れていた、こ ことではない。そうではなくて、戦争になるかど

れが二〇〇二年の状況だったのではないかと思い

す。

れはやはり近現代史上の大事件だったと思い

ま

4

という言葉を取り上げているということが言える自国の周りの出来事に反応して「地政学リスク」このように見ていくと、日米とも、メディアは

る「国家」 四、心ならずも重荷を背負わされ

そもそも論ですが、なぜこんな時代になってしているのか。少し前は、グローバル化が進めば、まったのか。少し前は、グローバル化が進めば、まったのか。少し前は、グローバル化が進めば、まったのか。少し前は、グローバル化が進めば、まったのかと思います。そこを、一九九○年代、二○○○年代、二○一○年代に分けて少し振り返ってみたいと思います。

た時代でした。

(一九九○年代~「脱・国家」というユーフォリ

ア

やNGOが中心になるのではないかとまで言われした。冷戦は終わり、ソ連邦も崩壊した。軍隊は もう要らない、平和の配当だと。そして、一九九 もう要らない、平和の配当だと。そして、一九九 を越えられるかという大実験に踏み切ったわけで を越えられるかという大実験に踏み切ったわけで をあため、国家というプレーヤーは後ろに下 がり、むしろ、これからは多国籍企業や国際機関

一九九○年代のもう一つの特色は、インターー九九○年代のもう一つの特色は、インターへ一台持つようになり、企業の意思決定も、組織ではなく個人でやるようになってきました。何織ではなく個人でやるようになり

- 5 -

す。

とき、手当てしてくれるのは国家ではないか。本ま施したら収まった。結局、世の中で何かあったような感じですが、予防的利下げを三回速やかにような感じですが、予防的利下げを三回速やかによのを強いですが、予防的利下がを三回速やかによる国際金融危機が起きたわけです。LTCMのよる国際金融危機が起きたわけです。LTCMの

このような中、アジア通貨危機やLTCM

九九〇年代の終わり頃から見えてきたと思いまに、国家の仕事がますます増えていく、それが一当はもう国家の時代ではなくなっているはずなのとき、手当てしてくれるのは国家ではないか。本

想) (二〇〇〇年代~「アメリカー極時代」という幻

した。もしかするとアメリカ一極時代、アメリカ世紀の終わりには財政も黒字になるほど絶好調で

九〇年代後半のアメリカは好景気を迎え、二〇

テロ事件が起こり、それに対する一種の過剰防衛ていましたが、二○○一年九月一一日に同時多発の言うとおりにしていれば何とかなるとも思われ

の天下になっていたかもしれませんが、御案内のラク戦争がうまくいっていれば、本当にアメリカのような形でイラク戦争が始まりました。このイ

き、中国、ブラジル、ロシア、インドが大きく伸カがつまずいているうちにBRICsブームが起とおり、全く逆の結果になっていきます。アメリ

6

びていく。資源価格も上がり、気がつくと、二〇

うことになるのですが、二○人も集まるとやはりではもう物事を決められない、G20の時代だといしかも、リーマンショックが起きて、G7やG8

物事が決まらないわけです。

(二○一○年代~「地政学」の復活と揺らぐ国家)

いてしまったのが二〇〇〇年代で、その結果、二 軍事だけじゃなく、経済でもアメリカがつまず

○一○年代に地政学の復活を招いたのではないか

と私は思っています。特に、二つの大きな事件が

一つは、クリミア併合の問題です。二〇一四年

者のミードが「地政学の復活」という論文を書き と言えるかと思います。当時、私の好きな政治学 変更は、第二次世界大戦後、ほぼ初めてのケース にロシアがクリミアを併合しますが、この国境の

クリミア併合の後、もう五年以上たちますが、ロ ても、それをアメリカは止めることができない。 す。今までの秩序を変えようとする国があらわれ うと、ロシア、中国、あるいはイランのことで 変更勢力)」という言葉が出てきます。端的に言 ましたが、その中に「Revisionist Powers(現状

> シアに対して経済制裁はできても国境を元に戻す ことはできていません。

もう一つの大事件は、二〇一六年のブレグジッ

トです。

なぜイギリス国民はEU離脱を選んだのか。 (V

明が非常に腑に落ちました。Anywheresと に対するSomewheresの逆襲である」という説 ろいろな説明がありますが、私は、「Anywheres

「どこでも君」と「ここだけ君」という感じで Somewheresというのは、あえて日本語にすると 7

す。一方、「どこでも君」は、生まれた土地にと 人がほとんどでした。つまり「ここだけ君」で

になっている人たちです。EUは単一市場で、ど どまらず、それこそ大谷翔平や大坂なおみのよう に世界で活躍し、本当に果てしない力を持つよう

こに住んでも生活しても同じという考え方で「ど

しょうか。これまでは、生まれた土地に永住する

が「もうEUから出たい」という形になったわけ 、そこへ移民がやってくる。このような極端な も、そこへ移民がやってくる。このような極端な も、そこへ移民がやってくる。このような極端な と、自分たちは全く

五、二〇二〇年代の「国家」はど

では、間もなくやってくる二〇二〇年代はどううする?

本があります。ニーアル・ファーガソンとファ二〇二〇年代を考える上で、非常におもしろい

なるのか。

が圧倒的におもしろい問題提起をしています。トランド出身の歴史学者であるファーガソンの方ズ」編集長の経験もある有名な人ですが、スコッズ

す。ザカリアは外交誌「フォーリン・アフェアーリード・ザカリアという二人の知の巨人の論争で

8

ければ、ローマでもなければ、帝国でもなかった」と断言しています。すなわち、「神聖でもなだった。それは神聖ローマ帝国のようなものだっだ。

アメリカでも、「忘れられた人々」とでもいいますか、中西部のラストベルトと呼ばれる地域のされて不満を持っている人たちがトランプさんを支持し、一票の力で世の中を変えた。このようなことが二○一○年代の地政学の復活の背景にあるのではないかと思います。

地政学リスク時代を考える もなければ、Internationalでもなければ、Order でもなかった。なぜなら、この国際秩序を一番う が、「Liberal International Order は、Liberal で た。」これは西洋史の中では有名なフレーズです

と説いています。それに対してザカリアは、「い の中は完全に力の政治の世界に入ってしまった」 この鋭い指摘にはタジタジですが、「もう今まで たものじゃない」と言うわけですが、これからの や、そんなことはない。アメリカはまだまだ捨て のようなぬるい秩序を考えていてはいけない。世 Liberal でも、International でもないだろう」と。 まく利用したのは中国であり、その時点で、

うですが、私は、この議論は圧倒的にファーガソ 観衆は、どちらかというとザカリア寄りだったそ ンの勝ちだろうと感じました。

時代を読むのに大変刺激的な論争です。

どちらが正しいか。実際に二人の討論を聞いた

これは嫌みでもお世辞でもありません。最近ワシ 政治が安定している国はないと言われています。 このような動きの中で、日本は特殊で、これほど 外の敵も増え、なおかつ人の移動も止まらない。 力の政治はますます続いていくうえに、国家以

うやら、世界各地で同じようなことが言われてい 倍さんからトランプさんに言わせようと大真面目 も絶対に習近平さんの耳には届かないらしい。ど に考えているそうです。北京でも、下から言って

ントンの人たちは、自分たちが言いたいことを安

るようです。

格差もまだそれほど広がっていません。日本人の に移住して「やっぱり日本はだめだ」というよう 意識の高い Anywheres は、シンガポールあたり で言うと、余り Anywheres が目立ちませんし、 日本は、先ほどの Anywheres と Somewheres

なことを言っているようですが、日本に住んでい

9

時代は、日本にはゆっくりとくるのではないかと いうことです。 る人には全然その声が聞こえて来ない。もちろ いずれ変化は訪れると思いますが、 地政学の

す。 か、省庁を一部移転しようとしましたが何も解決 中で全く進まなかったのは、まさしく地方創生で とが懸念されます。安倍内閣のいろいろな施策の していません。AI、ビッグデータの時代は知恵 そうなっていますが、一極集中もますます進むこ また、知識社会がますます進んでいくと、既に 地方に大学を作ろうとか、雇用を分けようと

代になれば、世界中どこにいても仕事ができるよ たと思います。 うになる」というのは、とんでもない間違いだっ が一カ所に集中するので、そこへ出向かないと何 も始まらないという問題があります。「ITの時

最近おもしろいと思う現象は、アメリカの大統

領候補が上院議員ばかりになっていることです。

も全部州知事出身です。今は州知事ではなく、上 ター、レーガン、クリントン、ブッシュ(息子) 昔はほとんど州知事でした。ニクソン、カー

政治家はワシントンにいないとチャンスがない状 で五人ぐらい残っています。政策の一極集中で、 院議員が有利です。バラク・オバマ、ジョン・ マッケイン、そして今回の選挙では上院議員だけ

六、そもそも「地政学」とは何か

ここで、そもそも「地政学」とは何かという話

をしたいと思います。

奥山真司先生によると、「地政学とは『Geography Politics = 地理+政治』で、極めて簡単に言う

日本経済調査協議会で委員になっていただいた

態になっています。

は、 と、「二一世紀の地政学」が復活していて、それ もしろい本を書いてくれました。杉田さんによる だ、この説明では、ブレグジットやトランプ現象 前提に国家の戦略を問う」ということです。た は、「地理という人間の力で変えられないものを せているということです。隘路に陥った資本主義 です」という答えが返ってきました。ポイント ら、「評判は大変悪いです。あなたたちのような ト・グローバル時代』の地政学」という非常にお のようなことはスコープに入ってきません。 ゆる誹謗中傷を浴びせられる学問、それが地政学 人たちがいるから戦争が起こるとか、ありとあら ので、「それは評判悪くないですか」と聞いた 一年前に、共同通信の杉田弘毅さんが「『ポス 国民のやり場のない怒りが政治を不安定化さ

ピュリズムの道具になっていると指摘していまりートの学問です。ところが今や、地政学はポリートの学問です。ところが今や、地政学というのは、奥山先生の言うような意味であれば、外交のは、奥山先生の言うような意味であれば、外交と流動化する民主主義の中から地政学の時代が復

です」とおっしゃっていました。かなり怖い話な

地図を見ながら戦争に勝つ方法を考える学問

識」(Narrative)、つまり、その国が持っている考える学問であり、④国によっては、「歴史認られないものを前提に、③「戦略」、特に戦争をられないものように定義してみました。①「国家」学」をこのように定義してみました。①「国家」

物語も重要な意味を持つということです。

す。

そこで私は、

奥山・杉田両氏を合わせて「地政

七、地政学の実際

(1) 日本列島における地政学

を挙げてみたいと思います。では、このような前提のもとで幾つかサンプル

まず、日本列島における地政学です。

図を逆さにしたものです。私は富山出身で、あちというものがあります。天気予報で見るときの地富山県土木部が作った「逆さ地図」(図表1)

この地図を作っているわけですが、それとは全く環日本海は富山が中心だということが言いたくて、一枚三〇〇円で売っています。要は、

こちでこの地図を紹介しています。富山県の施設

それは、この細長い列島を守る場合、どれだけわかります。別の視点で見ると日本列島の地政学が非常によく

す。また、海軍力というのは、軍隊だけではなめには、当然のことながら相当な経済力が必要でと思ったはずです。さらに、海軍力を維持するたと思ったはずです。さらに、海軍力を維持するたの海軍が必要なのかということです。幕末に初め

ど、いろいろなものが含まれてきます。

く、海上保安庁や商船、

商社、

あるいは造船業な

は不凍港を求めて東へ東へと進み、一八六〇年に邪魔な存在だということに気がつきます。ロシア・大陸側から、日本列島をみると、非常に

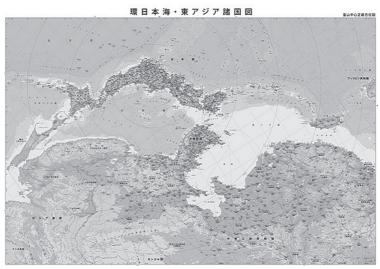
意)という不凍港を見出しました。ところが、太ようやくウラジオストク(「東方を支配せよ」の

峡、必ず日本のどこかを通らなければならない。平洋に出るには、宗谷海峡か津軽海峡か対馬海

いくはずがないわけです。ちなみに、バルチックうことになる。どう見てもロシアと日本はうまくつまり、「日本列島ほど邪魔なものはない」とい

地政学リスク時代を考える

図表 1 「逆さ地図」(© 富山県) が示す北東アジアの構造



るのは、

います。たいへんな熱意です。

しかし、日本列島が一

番邪魔な存在になってく

わざ「今朝の独島地方の天気は…」などと言って

「出所」 この地図は富山県が作成した地図を転載したものである

京から艦隊が出ていこうとすると、片仮名の京から艦隊が出ていこうとすると、片仮名の京から艦隊が出ていこうとです。この地図水艦の活動が丸見えだということです。この地図を見ていると、尖閣諸島周辺でトラブるのも当然を見ていると、尖閣諸島周辺でトラブるのも当然だと思えてきます。

が、対馬海峡で沈められてしまいました。艦隊は喜望峰経由で大回りしてやってきました

きい。

韓国の天気予報では、

日本列島は入ってい、日本列島は実に大

朝鮮半島から見ると、

ません。

でも、

独島

(竹島) は入っていて、

わざ

— 13 —

何といっても中国から見たときです。北

す。このような発想は、ある時期までは世界共通 でしたが、私たちはそのことをしばらく忘れてい 極端な見方ができるのではないかと思い

ぇ

て、なぜか二〇一〇年代以降になって突然思い出 国との関係というのはほぼ場所で決まる、そのく

気付きます。イラクはフセインの時代、スンニ派 見ると、サウジの目には、シーア派に囲まれて、 相手にするのかと思いますが、地図を逆さにして の国でしたが、今はほとんどシーア派の国で、イ 両方から攻められているように見えていることに

てもホウシー派にできるような話ではありませ という大変な事件が起きましたが、あれは間違っ 九月一四日に、サウジの石油施設が空爆される エメンにはその分派であるホウシー派がいます。

ということが判明したのはすごい話です。 つま

ら買っていた防空システムは、全く役に立たない

も、今までサウジが高いお金を出してアメリカか

ん。恐らくはイランの仕業でしょう。それにして

り、超低空でドローンが侵入してきた場合、 防空

ス・アショアを買っていていいのかと思います。 システムは意味がない。ですから日本も、

北朝鮮のミサイルはまだ対応できるかもしれませ

(2) 中東・サウジアラビアの地政学

さなければならなくなったわけです。

この絵 二番目の例は、中東です。 (図表2)は、慶應義塾大学の田中浩一

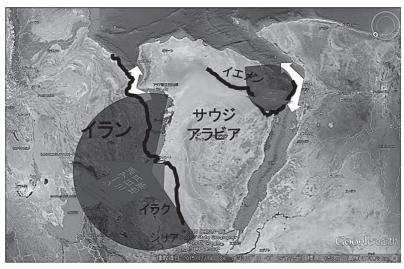
郎先生(元日本エネルギー経済研究所常務理事) に教わりました。

サウジアラビアを逆さにするどのように見える

に地図を見ると、なぜイエメンなどという小国を ウジはイエメンにも戦争を仕掛けています。普通 ランの関係は大変ややこしくなっているうえ、サ か。これも目からうろこでした。今、サウジとイ

地政学リスク時代を考える

サウジアラビアの脅威認識(想定) 図表2



[出所] 一郎氏作成資料より転載。

慶應義塾大学教授田中浩

うことはないでしょう。

まだ隠していることがあ

ると見ておいた方がいいと思います。

ね。

あれだけの空爆があって、死傷者がゼロとい

に落ちません。

死傷者の発表も全くないですよ

アメリカ大統領選挙という地政学

(3) 一〇一六年の選挙においては、 メリカの大統領選挙は地面取りゲームです。 私もアメリカ政治

か ん が、 しれません 北 朝 発鮮がド 口 シ の開発を始めたら、

危険

もう一つ、地政学というと必ず出てくるのがホ

です。サウジの石油だけでも日量一二〇〇万バ

国に輸送される石油の量は、

全体の輸入量の

八割

ル ムズ海峡です。このホルムズ海峡を通って我が

全く腑

いう説明がされていますが、正直言って、

たと言われています。ほとんど元に戻っていると ルで、そのうちの半分が今回の爆撃で一旦とまっ

コンシンも勝てないだろうと思っていました。と

た。関係者は「世論調査が間違っていたのだかた。関係者は「世論調査が間違っていたのだのは、ペンシルベニると、フロリダは共和党でもおかしくない。オハると、フロリダは共和党でもおかしくない。オハると、フロリダは共和党でもおかした。普通に考えると、フロリダは共和党でもおかしたのだかが、関係者は「世論調査が間違っていたのだか

ウォ

ッチャーの一人として完全に読みを外しまし

足しても一〇万票ぐらいでした。党にかわり、しかも、その三つの州の票差は全部党にかわり、しかも、その三つの州の票差は全部が、差を開けてみたら、ペンシルベニアとミ

かつ、その中でも、当日投票に行った人は一億三ち、登録有権者は一億四六○○万人、つまり、二ち、登録有権者は一億四六○○万人、つまり、二が、投票可能な人は二億三○○○万人で、そのうが、投票可能な人は

れが二○一六年のアメリカ大統領選挙でした。たわけですが、選挙人の数では大差になった、こ二○○万人で、トランプさんの方がやや少なかったが六三○○万人。最終的に、クリントンさんに投じた五○○万人。最終的に、クリントンさんに投じた

者選びについて話をしました。今の時点では、エさせてもらっていますが、昨日は、民主党の候補回ほど、テレビ東京のモーニングサテライトに出

では、二〇二〇年はどうなるのか。私は月に一

レン恐怖症は非常に極端です。確かに、ウォーレいと思っていますが、マーケット関係者のウォー

リザベス・ウォーレンさんになる確率が極めて高

と、かなり微妙だと思います。トランプさんはプ街ですが、トランプさんとどちらがいいかという制強化など、極めてアンチビジネス、反ウォールンさんの主張は、フェイスブックの分割や金融規ー・データ

ロビジネスの人ですが、あのような人です。言う

思いますが、 ことを聞かないプロビジネスの人と普通のインテ ンさんは困ります」と皆さんが言うので、少し驚 リのウォー レンさんだったら、 番組でこの話をすると、「ウォーレ 結構い い勝負だと

(4) 米中覇権争いという究極の地政学

ています。

洋戦略」と「一帯一路」です。 見渡した巨大な構想ですが、最近、 究極の 中 ・国の「一帯一路」は、ユーラシア大陸全体を 地政学は、「自由で開かれたインド太平 中 ·国側) は、

要は、 をハートランドと呼んで、「ハートランドを制す てきています。 る者が全世界を制す」という考え方があります。 陸だけでなく海も含まれる」と言うようになっ 陸が有利か、 地政学の中にも、ユーラシア大陸 海が有利かという話です。大

まかに言うと、

陸の地政学が「一帯一路」、海の

ていいでしょう。

地政学が

「自由で開かれたインド太平洋戦略」

لح

いうことになるかと思います。 「自由で開かれたインド太平洋戦略

(=Free

最近

and Open Indo-Pacific Ocean)」のことを、

この表現は、もともと安倍総理の言葉です。 は略して「FOIP(ホイップ)」と言います。 第一

次安倍内閣の末期、二〇〇七年八月に安倍さんが

ます。これが何とアメリカの国家戦略の言葉とし わり」という話があって、 インドの議会で行った演説の中に「二つの海 それが起点になってい の交

て使われるようになっています。

言っているわけです。これは二〇一五年ぐらいか 作り、その中で人民元の国際化も進めていこうと ら始まっている争いですが、これも地政学と言っ 方で中国は、「一帯一路」を広げて経済圏を

17

地政学リスクにどう立ち向か

す。 者はどう考えればいいのかについてお話ししま どう立ち向かっていけばいいのか、投資家や経営 では、 地政学リスクの時代にビジネスの人間は

す。 者の言うことが、ビジネスのためになるというこ とはなかなかありませんが、ナイトの教えは非常 ゴ学派の経済学者フランク・ナイトです。経済学 に実践的で、役に立つ発想ではないかと思いま ここでぜひ思い出していただきたいのは、シカ

るリスク。もう一つは、計算できない不確実性で のを二通りに分けたことです。 ナイトの功績は、 いわゆるリスクと呼ばれるも 一つは、 計算でき

計算できるリスクとしては、縁起でもない

す。

すが、 ないということを知っています。 ちは、今まさに首都直下型地震が来てもおかしく 例えば首都直下型地震が典型的です。 でも、怖くはな

うえ、被害の大きさもイメージできていますし、 対策もあるからです。ただし、「ある」と「やっ

い。なぜかというと、規模が大体計算できている

が、ちゃんとイメージできるもの、これがリスク さんがやっているはずだと思っているぐらいです ている」というのはまた別で、私の場合は家で奥

ところが、不確実性は違います。二〇一一年の

です。

たらしいという情報が入ってくる。 震災直後のことを思い出していただくのが一番良 いかと思います。東北で二万人もの人が亡くなっ 福島の原発が

暴走しているらしいということもわかってくる。

雰囲気がまさしく「不確実性」です。で行けば安全なのか全くわからない。あのときのでけれども、逃げるところはあるのか。どこまでは、自分は一体どうすればいいのか。逃げ出し

がまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまます。例えば、保険を掛ける、コンティンができます。例えば、保険を掛ける、コンティンが、不確実性は対策の取りようがありません。今が、不確実性は対策の取りようがありません。今が、不確実性は対策の取りようがありません。今がまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまさしく不確実な状態で、毎朝トランプさんががまる。

とです。もう一つは、「経営者が不確実性に対処は排除できない」。つまり、諦めなさいというこ一つは「完全競争のもとにおいては、不確実性

をしますが、不確実性の裏側にもリターンがあっ「リターンはリスクの裏側にある」という言い方する報酬が利潤である」ということです。よく

われても余り救われた気にはなりませんが、これいう議論です。したがって、言い尽くされたことではありますが、リスクとは、回避するものではなく管理するものであり、その術を持っている者なく管理するものであり、そのために経営者は給料をもらっている、とて、そのために経営者は給料をもらっている、と

ナイトは不確実性という概念を発見した上で、する、という時代に突入しつつあります。

想定外のことをツイートしているのを見て唖然と

は参考になるアイディアだと思います。

それに対してどう対処すればいいのか、その答え

も示しています。

九、ルービン財務長官の十二か条 に学ぶ

務めたロバート・ルービンさんがいます。彼は、 人に、一九九〇年代後半にアメリカの財務長官を

不確実性に非常にうまく立ち向かった先達の一

自分のすごさを喧伝するということが全くない人

当に淡々と書いています。彼は何かあるたびに、 で)」という回顧録の中で、起こった出来事を本 で、「In an Uncertain World(不確実な世の中

出し、いろいろなことを書いて、そこで一つ一つ アメリカ人がよく使う黄色のレターパッドを取り

決断を下していきました。その意味では余りおも に「ルービンの一二か条」が出てきます。この一 しろい内容とはいえない本ですが、最後のところ

二か条は、時々振り返ってみるのに非常によい言

まず一つ目は、「人生で唯一確かなことは、 確

葉だと思います。この中からいくつか紹介しま

す。

を言ってどうするのかという話ではありますが、 かなものなど何もないということである」。それ

言われてみたら、まさしくそのとおりです。

機や一九九八年の金融危機など、いろいろな危機 にうまく対応しましたが、それに関連しては次の ルービンさんは、一九九五年のメキシコ通貨危

ほうがよいときがある」。例えば、リーマンショ

クのときのポールソン元財務長官が示したバズー

言葉です。「資金を渋るよりは余るほど投入する

カの話が該当するかと思います。

は、それだけで好ましい」です。つまり、 味わいがあると思うのは、「選択肢があること 選択肢

案・B案・C案、上策・中策・下策でも何でもい が一つしかない状況に陥ってはいけなくて、A

を増やしておかなければいけないということだといのですが、常にカードを持ち、普段から選択肢

も、ルービンさんのような人が言うから値打ちが真剣な分析と配慮にまさるものはない」。これさらに、「小手先の細工を用いてはならない。

あるのかなと思います。

九月の日経新聞「私の履歴書」に、私の敬愛する野中郁次郎先生が執筆しておられました。これは聞いた話ですが、通産省の若手官僚が野中先生は聞いた話ですが、通産省の若手官僚が野中先生に講演をお願いしたところ、「今日はいろいろな話をしますけれども、メッセージは一つだけで話をしますけれども、メッセージは一つだけでれたけだったそうです。まさしくルービンさん

地政学リスクの時代における心構えとして、あいかに周りが認めるか、結局そこに尽きるといういかに周りが認めるか、結局そこに尽きるというのが野中先生の教えだと思います。

があるということです。まり目新しくはありませんが、このような考え方

十、地政学リスクと付き合うヒン

最後に、私なりのアイディアを幾つか述べてみ

たいと思います。

の原理の違いを知るということです。これは宮家一つは、パワー(安全保障)とマネー(経済)

邦彦さんが得意な議論で、「それで一冊本を書い

ていくのは決して簡単なことではありません。ま

ただ、何が本質かということを個人が突き詰め

の言う「真剣な分析と配慮」です。

た。また、自分が長く追い続けてきたパワーは、そんな当たり前のことに今まで気付いていなかっ

目に見えないし、取っておくことができなかった

いてくれそうにありません。てください」とお願いしているのですが、全く書

継ぐために外務省を辞めて会社経営を始めます仕事をされてきた方です。あるとき、親の仕事を宮家邦彦さんは、外務省でパワーを相手に長く

を手にするためには頭を下げなければいけない、ネーの余りの違いに愕然としたそうです。マネーが、いきなり入ったマネーの世界で、パワーとマ

よかったということを言っていました。変なことか。自分はその両方を知ることができてばらしいことだが、マネーを蓄えるのはいかに大が、マネーは取っておくことができる。これはす

異なります。投資家は、マネーという蓄えられる言われてみれば、パワーとマネーの原理は全く

分の力を拡大するかということを考えている。そとっておけない。今日のパワーを使っていかに自別の見方をしています。今日のパワーは明日にけですが、パワーの世界の人たちは、それと全くものをいかに増やすか、という勝負をしているわ

が一点目です。

二点目は、「ルービンの一二か条」にも出てき

の決定的な違いに気付かなければならない、これ

はなく、いろいろなステークホルダーに会って、けておく。つまり、会社のことを広報するだけでとですが、幅広いステークホルダーにフックをかという、盤択肢を増やすということです。これましたが、選択肢を増やすということです。これ

ぶだいだいのよぶっこととでいておくこと伝えていく。そうやってフックをかけておくこと「うちの会社はこのようなことをしています」と

三点目は、地政学の話になると、何かにつけてが会社の安全につながるという見方です。

専門家が出てきますが、ご自分が地政学の専門家 になる必要はありません。専門家は上手に使えば いいということです。これは、政治家と官僚、医

手

者と患者など、いろいろな関係でも見られること

えば総合商社がどのような形でできてきたかなど は、大体は分かっていますが、高度成長期のこと 近現代史、戦後史が意外な盲点で、そこを知らな などは意外とわからなくなっています。このよう いと初歩的な理解が及ばないことがあります。 最後は、歴史をよく知るということです。特に

例

○質問者

ゼネラルなお話をいただいたので、個

御意見等、 で終わらせていただきまして、 ろいろとお話ししてまいりましたが、この辺 頂戴できれば幸いです。 皆様から御質問

くるのではないかと思います。

なことも地政学を理解するうえでは重要になって

長時間、 御清聴ありがとうございました。(拍

> かりやすいお話をいただきまして、どうもありが ○増井理事長 地政学リスクをどう考えるか、わ

とうございました。

しょうか。 若干お時間がございます。 御質問等いかがで

別のことを伺いたいのですが、今私たちにとって ナス成長で、大変な状況になっています。 一番関心があるのはお隣の韓国です。経済はマイ しか

とは誰も否定できません。最後はどのように落ち くなっていて、両者の関係が空前の危機であるこ つくのか、誰にもわからないと思いますが、 し、それでも日本に対する敵対心が前よりもひど 個

います。

的な御見解で結構ですので、お話を伺えたらと思

痛い す。 り痛い思いをしていません。確かに、徴用工問題 す。ですから、米中貿易戦争という状態は物凄く フリクションがない。日本側から見ても、実は余 り期待できない規模なので、外需に依存していま 出席しましたが、彼らはこの結果を見て、うらや ましいと言っていました。韓国経済は、 かなり悪い 昨日、 わけです。これに対し、日韓経済はほとんど 私は韓国大使館の経済通商セミナーに ものの、 非製造業は結構よかっ 内需が余 たで

年春の選挙で負ければ、雲行きはちょっと変わるのため、反日カードでも何でもやるわけです。来正して、再選するということを考えています。そが確実に有罪にされてしまう。できれば憲法も改

○吉崎

今週発表された日銀短観では、

製造業は

棄したことで在韓米軍のリスクが高まりました。の中でも反省があるようです。GSOMIAを破一方、GSOMIAについては、さすがに彼ら

かもしれません。

のことを言っていましたが、さすがに分かってきのであって。アメリカには関係ない」という趣旨

権はぴんときていなくて、「日本を懲らしめたい

リスクを高めた許せない話です。そこに文在寅政つまり、アメリカからみると、自分たちの仲間の

たら、徴用工問題とセットで何とか妥協を図れる日の失効までに日本が輸出管理を引っ込めてくれて、あれはまずかったと。そのため、一一月二三のことを言っていましたが、そのため、一一月二三のことを言っていましたが

のではないかと考えているようです。しかし、彼

改革しないと、歴代の大統領と同じく、後で自分年四月の総選挙で過半数をとって検察を抜本的にただ、文在寅大統領の立場になってみると、来

議が行われましたが、経済界同士では大きな問題

ありませんでした。

ない額ではありません。九月下旬に日韓経済

人会

でお金を取られるという話はありますが、途方も

数の - 24 -

は日本側としては受けられないということになっ らうのが前提なので、 らのアイディアは、 日本企業にもお金を出しても 日韓基本条約に反すること

余り答えになっていないかもしれませんが、

私

てくるかと思います。

の見方です。

せんが、資料の中にイアン・ブレマーの ○増井理事長 大変単純な質問で申しわけありま

その後、 あるいは、これが発表されたのは年初ですから、 状況が違ってきているとお思いになるで

から見て、やはりこの順番でリスクがあるのか、 九年のリスク」というのがございます。吉崎さん

個 当によく調べていて、しかも全世界を飛び回 いるので、感心することが多々ありますが、 ○吉崎 イアン・ブレマーはいろいろなことを本 人的に注目しているのは、「米国の内憂」とい 私が って

> が、彼はきちんと制御される」という言い方をし う項目です。今まで彼は、「アメリカ国 61 トランプ政権は問題があるように見る 内は える 問 題

な

のトランプ政権は、側近としてゲーリー・コーン 七年と二〇一八年では相当違います。二〇一七年 取り上げました。私が見ていても、 ていましたが、今年ついにアメリカ国内 確かに二〇一 の問題を

施したり、米朝首脳会談を実施したりと、大統領 二〇一八年になると、関税の引き上げを次々に実 の暴走が止まらなくなってきました。イアン・ブ

レマーが二〇一九年にアメリカ国内の問題に目を つけ始めたところを私たちは細かく見ていくべき

ではないかと思います。 それ以外にも注目してい るのは、「イノベ

ション冬の時代」です。AIやビッグデータにつ

氏のような有能な人がいて、大減税も決めました

し、それほど心配することはなかったのですが、

いと思います。

で、大変参考になりますし、二〇二〇年も勉強さの辺の最先端の話もうまく拾ってくれる人なのベーションは結構行き詰まっているようです。こ

61

てはバラ色の話をよく聞きますが、

実はイノ

このあたりで「資本市場を考える会」を終わりた○増井理事長(そろそろ時間でございますので、せてもらいたいと思っています。

やすいお話をありがとうございました。(拍手)をすいお話をありがとうございました。(拍手)

(よしざき たつひこ・双日総合研究所

チーフエコノミスト)

要旨を整理したものであり、

本稿は、令和元年十月三日に開催した講演会での講演の

文責は当研究所にある。

吉崎達彦氏

略 歴

1984年一橋大学卒、日商岩井㈱入社。

広報誌『トレードピア』編集長、米ブルッキングス研究所客員研究員、経済同友会 代表幹事秘書・調査役などを経て企業エコノミストに。日商岩井とニチメンの合併 を機に2004年から現職。関心領域は日本経済、米国政治、外交・安全保障論など。 大阪経済大学客員教授、一般財団法人 国際開発センター理事、NPO 法人 岡崎 研究所理事、冠婚葬祭総合研究所客員研究員などを務める。

著書に『アメリカの論理』、『1985年』『気づいたら先頭に立っていた日本経済』(新潮新書)、『オバマは世界を救えるか』(新潮社)、『溜池通信 いかにもこれが経済』(日本経済新聞出版社)など。

産経新聞「正論」、北日本新聞「時論」、週刊ダイヤモンド「私のイチオシ収穫本」、 東洋経済オンライン「市場深読み劇場」などに定期寄稿。

テレビ東京『ニュース モーニング サテライト』、文化放送『くにまるジャパン極(きわみ)』などでコメンテーターを務める。

ウェブサイト『溜池通信』(http://tameike.net)を主宰。

フジサンケイグループから第14回「正論」新風賞受賞。